

## 虐待は誰のせい？

中一

昨年の読書感想文の課題で『ぼくが選ぶ ぼくのいる場所』という小説を読んだ。家庭内暴力や児童虐待を受けた主人公の少年が、自分の居場所を見つけていく物語だ。私をとりまく環境とあまりにも違っていて、なかなか理解が追い付かなかった。それ以降、テレビやインターネットのニュースで、子供が虐待や育児放棄される事件が流れると、気になって仕方がない。殴られて亡くなってしまう子、暑い車で放置される子、どうしてそんなことが起こるのだろう。大好きな親から虐待をされて、その子はどんな気持ちでいたのだろう。その子だって、これからたくさん遊んで笑って、幸せになる権利があったはずなのに、それを奪われて、どんな気持ちだったのだろう。いや、むしろ権利という考えすら分らない小さな子は、ただただ大好きなお母さん、お父さんと一緒にいたいと思ったのではないか。私は子供の立場で想像して、涙が出てきてしまう。

少しお姉さんの立場でも考えてみる。私は小さい子が好きで、たまらなく可愛いと思う。まして自分の子だったらどんなに可愛いだろう。五歳のいとこの、ふっくらしたほっぺや、小さな手で私の指を握ってくれる感覚や、あまりにも歩幅が小さくて歩調を合わせないといけないところも、愛おしい。時々何を言っているのか意味がわからなくて笑ってしまいうけど、それも愛おしいと思う。子供はこんなに可愛いし、親は子供を育てる義務があるのに、どうして痛ましい事件が絶えないのだろう。親の立場を想像して考えると、よく分かんなくなってしまう。

母に、

「私が生まれてこなければ良かったって思ったことあるかな。」

と聞いてみた。

「ないよ。」

と即答されて心底ほっとした。でも、大変すぎてつらいと思ったことは何度もあるそうだ。母が言うには、私は可愛いだけではなかったらしい。赤ちゃんの頃は夜中に何度も起きて泣くし、駄々をこねてどうしようもないし、言うことは聞かない

し、世話だけで疲れ切っていたら、狂いそうになったこともあるそう。スーパーで知らないおばあちゃんに、

「大変だね。頑張っているね。」

と言われて涙が出るくらい救われたこともあったそう。

虐待される子が悪いのか。虐待してしまう親が悪いのか。私はどちらでもないと思う。ただ、ニュースで虐待して逮捕されたお母さんが「孤独だった。」と言っていたのが、私の心にシミのように黒く残った。きっとそのお母さんも子供が大好きだったし、子供を育てる責任感や子供の権利も最初は分かっていたと思う。もしそのお母さんに誰かが優しい言葉をかけていたら、子供もお母さんも救われたかもしれない。子供の愛される権利もお母さんの愛情も守られていたかもしれない。社会は、一人だけで生きることが出来る場所ではないから、子供の権利はみんなで守ればいい。お母さんだけで抱え込む必要はない。「お互い様」という言葉もあるように、お互いに守り合える優しさで、社会はもっと良くなると思う。

考えてみると私は、小さい頃からたくさんの人

にお世話になってきた。両親や祖父母、学校や保育園の先生、近所のおばあちゃん、交通安全ボランティアのおじいちゃん。保育園で迎えが遅い日は保育園の先生と一緒に遊んでくれた。小学校低学年の頃は、学校帰りに迷子になって、交通安全ボランティアのおじいちゃんに連れて帰ってもらったこともある。家の鍵を忘れて泣いていたなら、近所のおばあちゃんが「ママが帰ってくるまでおいで。」と言ってお菓子をくれたこともある。朝、母に怒られて泣いて登校したら、学校の先生が泣き止むまで隣にいてくれた。A中学校に合格したときは、両親も祖父母も友達のお母さんまでも一緒に喜んでくれた。両親だけでなく血のつながっていないたくさん大人の愛情が私を育てて、守ってくれている。

だから、私には、子供の権利もあるけれど、それから大人になって、社会に恩返しする義務があると思う。たくさんの人に守ってもらった権利だから、これからしっかり勉強して大きくなったなら、今度は私が次の世代の権利を守る大人になりたい。社会の一員として子供の権利を守るように、優しい声をかけられる大人になりたい。